

生活発表会だより

吹き抜ける風がますます冷たくなり、冬本番を迎えています。子ども達はこま回しやけん玉、かるたなどに夢中です。お正月ならではの遊びを楽しみながら、昔からの風習、伝統を子ども達に感じてもらえればと思います。

厚生労働省から事務連絡により、保護者参加の行事は、地域の感染状況等を踏まえ、感染拡大防止の措置をとるようになっていきます。具体的には、参加人数を抑えること（対象となる子どもやクラスの限定、保護者等の参加人数に制限を加えるなどして最小限とする、参加者間のスペースを確保する）と指示がありました。今後の感染状況を見ながら、生活発表会の詳細については直前でお知らせすることになります。



劇遊びは話の内容に沿って子ども達が役になりきってお話の世界を楽しむものです。子ども達が1年間を通して、見て、経験・体験して、感じてきたことがそのまま劇遊びに詰め込まれています。各クラスの取り組んでいる劇遊びの様子をご紹介します。

○はとぐみ『さるおどり』

はとぐみは『さるおどり』というお話で劇遊びをします。『さるおどり』は、村のおはやしで太鼓を叩くお父さんに憧れ、毎日一人裏山で猿踊りの練習をしていた時に山猿たちに出会います。その山猿たちに猿踊りが上手になるためにいろいろなことを教わり、夏祭り当日を迎えるというお話です。

『さるおどり』は元気なはとぐみにぴったりだなと思ってお話を読んでも、食い入るように話を聞き、「めっちゃおもしろいなこの絵本!」「見て!かいかいのポーズ」とすぐに子ども達は猿になりきって遊び始めました。「猿は四本足で走るんやって」「ジャンプも高く跳んでる!!」と猿の表現の仕方を一人一人が考え、今はそれぞれが自由に猿になって楽しんでいます。ここからより猿の表現やお話の世界が深まるように、子どもたちから出てくるアイデアを大切に一緒に作っていきたいと思います。



○つばめぐみ『スイミー』

スイミーの絵本を読んだ際、小魚たちが大群になって大きな魚になった場面を見て、「つばめぐみさんみたいだね」というAさん。「どうしてそう思ったの?」と尋ねてみると「みんなで力を合わせているところが似ている!」と話してくれました。子どもたちもそう思っていたことがうれしく感じました。つばめぐみの劇がスイミーと決まり、ペープサートを作って遊び始めました。自分たちで登場人物になりきりながらペープサートを動かし、お話を進めています。「今からスイミーのお話はじまるよ～」と椅子を並べて、お客さんと呼び、「スイミー」のお話会をする様子が見られます。スイミーは“からすがい”よりもまっくろ!という“からすがい”が気になった5歳児は、図鑑でからすがいを調べ、本当にまっくろな色をしていることに驚いていました。海のような生き物にも興味を持っています。

○かなりやぐみ『三匹のこぶた』

絵本の読み聞かせをすると、オオカミの真似をして一緒に「フー——!!!」とおうちを吹き飛ばそうとしながら絵本を見ており、「おもしろかったー!」「もう一回みたい!」と、三匹のこぶたのお話が大好きな子どもたちの気持ちが伝わってきました。

5歳児を中心に、三匹のこぶたの紙芝居を作って読み聞かせをしたり、ペープサートを作って、こぶたやオオカミになりきりながら遊んだりする姿が見られています。また、何度もお話を読んでみると、こぶたたちの性格の違いに気づき、「いちばんめのこぶたは働くのきらいやで」「にばんめはいつもお腹すかせてる」「さんばんめはがんばりやさんだよ」と、歩く速さや表情を変えて子どもたちなりに工夫しながら、それぞれのこぶたになりきることを楽しんでいます。



○かもめぐみ『こびとのくつや』

『こびとのくつや』の絵本を読みました。初めて見る子どもも多く、お話が進むにつれて子どもたちはじつと見入っていました。読み終わると、「こびとさんかわいかった〜」「おじいさんが仕事頑張っていたからこびとが来たのかな?」「朝までにいっぱい靴作れるってすごい!」「おじいさんとおばあさん幸せになってよかった」と感想が溢れ出てきました。

「こうやって大きく縫ってるな」とこびとが靴を作っている動きを年長児が表現し始め、それを見て、3、4歳児も真似をしています。お話が進むにつれ、「ハサミも針もいるよな」「かわいい靴つくりたい!」と想像が膨らみ、実際に自分たちが履いていた靴を加工してみたり、「大きな金づちやハサミを作ろう!」と小道具作りも楽しんでいます。



○ひばりぐみ『わらしべ長者』

『わらしべ長者』というお話絵本が、お部屋に3冊あります。3冊とも、主役である男性は、「若い男」「村人」「まずしい人」と表現されています。「この人、名前なんて言うん?」「名前ないん?」「名前をつけよう」と話し合いが始まりました。A君が「まずもさんがいい」B君が「げんのさんは?」と候補が2つでてきました。どちらの名前にしようか、なかなか決まりませんでした。2つの名前を合わせて、「まずげんさん」に命名。

畑を耕したり、草むしりをする働き者のまずげんさんになったり、わらにとんでくるセミになったり、4月から体験してきたことが、表現遊びにつながっています。

いよいよ、ひばりぐみの『わらしべ長者』、まずげんさんの旅が始まります。